

令和7年度 獨協医科大学大学院看護学研究科博士前期課程入学試験(第2次募集)

【専門科目】 出題意図・解答例

問題 1

【出題意図】

1.研究姿勢の確認

看護師が研究に取り組む意義を理解し、学術活動を臨床改善につなげようとする姿勢を評価する。

2.臨床課題の抽出力

日常実践から「看護上の課題」を明確に言語化し、研究テーマに昇華できる能力をみる。

3.臨床と研究の往還思考

実践から課題を見だし → 研究によって検証 → 実践へ還元、という研究者・CNSに求められる思考過程を示せるかを確認する。

4.論理的文章力

背景 → 課題 → 研究の必要性 → 期待される成果、という構成で一貫性を持った文章を書けるかをみる。

\* 「研究する理由」を抽象的に書くのではなく、必ず 具体的な臨床課題（心理的支援、終末期意思決定支援、退院支援、疼痛管理など）を挙げることを求められます。

【解答例】

看護実践において研究に取り組む必要性は、臨床現場で生じる複雑な課題を科学的に検証し、看護ケアの質を向上させるためである。私が臨床で強く感じている課題は、「急性期における患者の心理的支援が体系化されていないこと」である。例えば、急性心筋梗塞や開心術術後の患者は、生命危機に直面した不安や治療に伴う身体的苦痛を抱えているが、現場では「どう声をかけるか」「どの程度情報提供を行うか」といった援助が個々の看護師の経験や感覚に依存しているのが現状である。そのため、患者によって心理的援助の質に差が生じ、回復過程や治療参加意欲に影響していると感じる。このような臨床上の課題を解決するためには、日常の実践に加えて研究的取り組みが不可欠である。研究によって、患者や家族がどのような心理的支援を必要としているのか、どの援助が症状安定や回復促進に効果的なのかを明らかにすることができる。また、その成果を指針や教育プログラムとして共有することで、看護師間の実践のばらつきを減らし、質の高いケアを標準化できる。

さらに、研究を通じて臨床実践を言語化・体系化することは、看護の専門性を可視化し、多職種連携においても看護の役割を明確にすることにつながる。急性期の患者支援のように、一見「暗黙知」として行われている援助を科学的に裏づけることは、看護師が主体的にチーム医療に参画する上でも重要である。

したがって、看護実践における研究は単なる学術活動ではなく、現場の課題解決を基盤にした実践改善のプロセスである。私は、臨床での経験を研究的に検証し、急性期における心理的援助を理論化・体系化することで、患者の QOL 向上と看護の発展に貢献していきたいと考えている。

## 問題 2

### 【出題意図】

●アドミッション・ポリシー1 および 2 を評価する視点からの作成

- 1.保健医療福祉専門職者としての知識並びに職業倫理を有する人。
- 2.保健医療福祉の専門分野における国外の動向及び実践上に課題意識を有し、解決に取り組む意欲を有する人。

### 【採点基準】

問 1：実践上の課題を見出せる職業倫理感（感性）

問 2：実践上の課題を分析的に思考できるリフレクシオン力、言語化できる知識

問 3：解決に取り組む意欲、創造性、独自性